

ハムレットを日本語で

平成8年8月27日～9月21日

シェイクスピアの四大悲劇のひとつ『ハムレット』は明治以来、様々な人々によって翻訳され、あるいは翻案されてきました。現在も新しい翻訳が生まれ、形を変えて上演され続けています。原語で味わうのが一番なのかもしれませんが、日本語に移しかえようと努力してきた人々のあとをたどってみるのも興味深いことでしょう。

あらすじ

デンマークの王子ハムレットは父王が急死し、母親が叔父クロードゥアスと再婚したため悲しみに沈んでいる。父の亡霊が現れてクロードゥアスにより毒殺されたことを告げ、ハムレットに復讐を誓わせる。ハムレットは狂気を装って証拠をつかもうとする。復讐は果たすが、その過程で恋人オフィーリア、大臣ポローニアスなど周囲の人々も次々に巻き込んでいき、最後は自らも命を落とす。

展示資料一覧

<>内は当館請求記号

どう訳す？ あの名セリフ

To be, or not to be, that is the question (3幕1場)

『ハムレット』の中でも最も有名な独白が、このセリフで始まる3幕1場の独白です。国王クロードゥアスはハムレットの狂気の実偽を確かめるため、オフィーリアとハムレットを会わせて対話を立ち聞きしようとし、祈禱書を読んでいるオフィーリアのところにハムレットが登場します。

1 The complete illustrated Shakespeare

edited by Howard Staunton ; illustration by John Gilbert and Ray Abel <KS171-A34>
New York Park Lane 1979

[まずは部分訳から始まった]

2 The Japan Punch 1874.1(複製版)

東京 雄松堂 1975

<Z51-D505>

アリマス、アリマセン、アレ ワ ナン デスカ (原文はローマ字) <Charles Wirgman>

最も古い邦訳。片言の日本語を逐語的に当てはめたもので、あまり意味をなしていない。ワーグマンは Illustrated London news 紙の日本特派員で、幕末から 30 余年横浜に在住した。

3 明治文化全集 第二十巻 文学芸術篇

吉野作造編

<081.6-M448-Y>

東京 日本評論社 1928

ながらふべきか但し又 ながらふべきに非るか 爰が思案のしどころぞ 矢田部良吉

死ぬるが増か生くるが増か 思案をするはこゝぞかし 外山正一

『新体詩抄』(明治 15)の中で 2 人が競訳したもの。これによって『ハムレット』の独白の重要性が認識されるようになり、島崎藤村、北村透谷などに影響を与えた。

4 魂迷月中刃 悲劇 一名・桂吾良

阿波寺鳴左衛門著

<YDM88859>

東京 女学雑誌社 明治28(1985)

死のか、死のまゝか、一思案 岩野泡鳴

劇中、苦悩する主人公の桂がハムレットに共感を覚え、本を取りあげて独白を誦する。

[初の完訳]

5 沙翁全集 第 1 巻

東京 大日本図書 明治38(1905)

<YDM101013>

定め難きは生死の分別 戸沢姑射, 浅野和三郎

初の完結した逐語訳。上演には向かない散文的な訳ではあるが、逍遙訳の土台となった点で意義がある。

[逍遙の 2 つの訳]

6 ハムレット

東京 早稲田大学出版部 明治42(1909)

<YDM101301>

存ふるか……存へぬか……それが疑問ぢや 坪内逍遙

明治 40 年 11 月 22 日、坪内逍遙訳・指導によって初めて翻訳劇『ハムレット』が上演された(それまでは翻案のみ)。逍遙はシェイクスピアの中に歌舞伎との同質性を見て、シェイクスピアをモデルに歌舞伎を改良しようとした。そのため七五調の古風な文体になっている。

7 新修シェクスピア全集 第27巻

東京 中央公論社 1933 <932-cS52s2-T>

世に在る、世に在らぬ、それが疑問ぢや 坪内逍遙

明治の訳にくらべ、かなり口語体に近づいている。直訳ではなく日本人になじみやすい語を使ったり、原作にはないト書きを加えるなど実演を目的に訳したと序文にある。シェイクスピアの全訳を行った業績は大きく、しかも日本語と日本文化に通じた逍遙ならではの高水準の翻訳である。

[多くの訳からほんの一部を]

8 ハムレット (思索選書第26)

東京 思索社 1949 <a932-36>

長らうべきか、死すべきか、それは疑問だ 本多顕彰

9 ハムレット (岩波文庫)

東京 岩波書店 1949 <a932-25>

生きるか、死ぬるか、そこが問題なのだ 市川三喜, 松浦嘉一

10 シェイクスピア全集第10巻

東京 新潮社 1959 <932-cS52s-Hs>

生か、死か、それが疑問だ 福田恒存

福田恒存は現代演劇協会を主宰して実践活動を行い、上演のための戯曲として、『ハムレット』を訳した。60年代は福田訳が主流であった。

「シェイクスピアの日本語訳は、日本人の役者が日本語をもって、といふのはその日本語を発声することによって演戯欲、行動欲を満足せしめうるものでなければならない」(福田)

11 世界文学全集 第10 シェイクスピア

東京 筑摩書房 1968 <908-Se122-t>

やる、やらぬ、それが問題だ 小津次郎

12 世界文学ライブラリー 1 ハムレットほか

東京 講談社 1971 <KE211-18>

生き続けるか、生き続けないか、それが難しいところだ 木下順二

13 シェイクスピア文庫 2 ハムレット

東京 白水社 1977 <KS171-116>

このままでいいのか、いけないのか、それが問題だ 小田島雄志

小田島訳も上演台本を目的としている。現代劇として平易な言葉で書かれ、言葉の面白さ、語彙の豊富さを味わえる訳である。70年代後半からは小田島訳が舞台で主流となった。

14 シェイクスピア全集 1(ちくま文庫)

東京 筑摩書房 1996

<KS171-G29>

生きてとどまるか、消えてなくなるか、それが問題だ 松岡和子

様々なハムレットたち

[日本で紹介されはじめた頃]

15 仮名垣魯文「葉武列土倭錦絵」

東京絵入新聞 明治19(1886)年11月2日3面

<YB-69>

最初の完結した日本語版。南北朝の時代に出雲の国の大守斯波家に起こったお家騒動に翻案している。題材の新奇さ、視覚的要素の多彩さなどによって取り上げられたものであろう。独白はすべて削除されている。当時は上演されなかったが、1991年に市川染五郎主演で上演された。

ハムレット=葉叢丸(はむらまる)

オフィーリア=実苺屋姫(みかりやひめ)

16 坪内逍遙「班烈多物語」

『中央学術雑誌』第9号 明治18(1885)年7月

<雑55-7>

1幕1場だけの部分訳。東京専門学校での講義の際に戯れに翻訳したものだという。浄瑠璃体で読物として訳しており、上演を目的とした後の訳とは違う。

17 山田美妙「正本はむれっと」(複製版)

『以良都女』14号 明治21(1888)年8月

<Z13-2812>

東京 不二出版 1983

「できるだけの言文一致体」を目指し現代語訳を行おうとしたものだが、未完に終わった。

[翻案劇の時代]

18 ハムレット 沙翁悲劇

シェイクスピア著 土肥春曙、山岸荷葉翻案

<YDM101302>

東京 富山房 明治36(1903)

日本における『ハムレット』の初演は明治36年11月2日、川上音二郎一座による公演であった。本書は川上の依頼で書かれた脚本であるが、登場人物の名前など、実際の上演台本はかなりの違いがある。明治時代を舞台とし、現代写実劇として上演しようとしたため、「生世話物としては最も無理、最も不自然なる独白」(山岸)も実際の上演では削除されてしまった。

主な配役	前葉村公爵の亡霊(原作は大村公爵亡霊)	川上音二郎
	堀尾令嬢おりゑ (" 折枝子)	川上貞奴
	葉村年丸 (" 大村照麿)	藤沢浅二郎

19 はむれつと 沙翁悲劇

シェークスピア著 山岸荷葉訳 <YDM101303>
 東京 春陽堂 明治40(1906)

市川小団次の依頼によって大時代狂言として翻案され、新作歌舞伎のひとつとして上演された。川上上演台本をもとにしており、構成などはほとんど変わらない。浄瑠璃や唄の挿入が大きな違いである。

[物語になったハムレット]

20 沙翁物語 (通俗世界文学第6編)

シェークスピア著 中島孤島編 <YDM101015>
 東京 富山房 明治36(1903)

21 シェークスピア ハムレット物語・マクベス物語

横山有策著 <568-388>
 東京 婦人之友社 1929

英文学者である横山有策による物語化。単に筋を追うのみならず、登場人物の性格など分析し、解説を加えているのが研究者らしい。

22 ハムレット

シェイクスピア作 森三千代 [著] <児932-M774h>
 東京 偕成社 1950

23 ハムレット (世界名作物語選書)

三島由紀夫 [著] <児932-M525h>
 東京 あかね書房 1951

[作家たちのハムレット]

24 志賀直哉 「クローディアスの日記」

『白樺』第3巻第9号 大正元(1912)年9月 <雑8-49>
 東京 洛陽堂

25 大岡昇平 「ハムレット日記」

『新潮』第52巻第5号 1955年5月
東京 新潮社

<Z13-583>

[絵と文で楽しむハムレット]

26 ハムレット (素描シェイクスピア劇場)

シェイクスピア [原著] 吉田萌子絵・文
東京 朋友出版 1985

<KS171-596>

27 シェイクスピア幻想 道化たちの夢物語

唐十郎文 東逸子絵
東京 PARCO出版局 1988

<KH248-E188>

◎請求記号が YDM 及び YB ではじまる資料は、マイクロ資料でのご利用になりますので、
展示期間中でもご利用になれます。

国立国会図書館 03-3581-2331(代)

ホームページアドレス <http://www.ndl.go.jp>

